

512 骨 SPECT による上咽頭腫瘍の骨浸潤の診断について

油井信春，関谷雄一，木下富士美，小坪正木

(千葉がん核医)，嶋田文之(同、頭頸科)

上咽頭腫瘍の頭蓋底骨浸潤の有無は治療法や予後に大きく関わる問題であり、現在その診断は X 線 CT によることが多い。骨シンチグラフィは転移の早期発見の手段としてはきわめてすぐれ、ひろく用いられているが骨浸潤とくに頭頸部腫瘍での頭蓋、顔面骨の浸潤の診断法としての有用性に関しての報告は少ない。頭蓋、顔面骨では解剖学的なかさなりが複雑であるため、異常の有無や局在の正確な判定が困難なことも、その理由として考えられる。われわれは 16 例の上咽頭悪性腫瘍患者を対象として SPECT を加えた骨シンチグラフィの頭蓋底への浸潤の診断能について検討した。全例で X 線 CT 所見をも加味した臨床的な腫瘍の伸展度の分類と比較し、症例毎に予後についても検討した。その結果、骨 SPECT は他の検査法では診断できなかった骨の異常を早期に検出し、予後との関連性も認められた。すなわち、臨床的に T4 とされたものでは全例に、T4 とされなかったものでも約 3 分の 1 に骨シンチグラフィで陽性所見がえられ、その後の経過はシンチグラフィの結果とよく一致した。頭頸部領域での骨 SPECT は有用な検査法であると考えられる。

513 顎・顔面の fibro-osseous lesion (FOL) の臨床と骨シンチグラフィの意義

奥山武雄，梅原 功，桑原雄二，鈴木宗治，

鈴木 均* (東医歯大 放，国立国府台 放*)

顎・顔面には FOL と総称される腫瘍性疾患が発生する。臨床症状は軽度であり、潜在病巣も少ない。四肢や軀幹骨における同類疾患に比して X 線診断は困難であるが、骨シンチは部位と質の診断に重要な情報を提供する。本年 3 月までに経験した 25 症例について臨床病態を分析し、骨シンチの意義について述べる。

年齢は 6～59 才に分布し、10 代と 30 代に多い二峰性を示した。組織学的には線維性骨異形成 (FD) が 15 例で、この内 4 例が全身多骨性、3 例が顔面域で多発性であった。骨化性線維腫 (OF) が 5 例で、この内の 2 例が多発性であった。他は、セメント骨化性線維腫が 1 例、FOL が 4 例であり、この内の 1 例が多発性であった。結局、25 例中 6 例が顎・顔面領域で多発性であった。症状は無痛性腫脹が大部、一部で歯牙動揺、眼突などがみられた。X 線診断学的には FD の一部で特徴的所見を示すものがあつたが、OF は所見が多彩であり、共に病巣の広がり診断は一般に困難であった。この点、骨シンチは全症例において高度で比較的均等な、特異的ともいふべき異常集積を示し、25 例中の 21 例で、骨シンチの診断学的優位性が認められた。

514 骨シンチグラフィにおける 7 時間像, 24 時間像の検討 — 良性疾患と悪性疾患の鑑別 —

小須田茂，後関武彦 (国立大蔵 放) 佐藤仁政
大棒秀一，土器屋卓志 (国立東二 核医セ)
桜田潤二，岡野義幸，橋本慎介，久保敦司，
橋本省三 (慶大 放)

骨シンチグラフィは各種骨疾患，とくに転移性骨腫瘍の早期発見の検索に，ルーチン検査として広く利用されている。しかし，骨シンチグラフィは特異性に乏しく，良性，悪性の鑑別が困難なことが多い。今回，骨シンチグラフィの経時的変化が良性・悪性の鑑別に役立つのではないかと考え，種々の疾患について検討した。

Tc-99m-MDP 約 25mCi を各種骨疾患患者に静注し，3 時間像，7 時間像，24 時間像の各イメージを撮像し，コンピュータに入力した。各時間像において，病変部 (L) および正常部 (N) に同面積の関心領域を設定し，カウント比，L/N を求めた。悪性疾患において経時的変化とともに L/N 比は高値を示す傾向が認められた。

515 Tc-99m-MDP による甲状腺癌の骨転移の描出

曾根照喜，福永仁夫，大塚信昭，村中 明，柳元
真一，友光達志，森田陸司 (川崎医大 核)，
原田種一 (川崎医大 内分泌外)

甲状腺癌は時に骨転移をきたすことが知られている。そこで，今回，我々は甲状腺癌の骨転移の描出における，骨シンチグラフィの意義を検討したので報告する。

臨床的に骨痛など骨転移が疑われた 22 例の甲状腺癌患者を対象に用いた。Tc-99m-MDP による骨シンチグラフィを施行し，異常集積の有無を検討した。骨シンチグラム上，cold lesion は 4 例に，hot lesion は 10 例に観察された。組織型との関係を見ると，cold lesion は乳頭状腺癌 2 例，ろ胞腺癌 2 例にみられ，一方，hot lesion は髄様癌 5 例，未分化癌 2 例，乳頭状腺癌と未分化癌の混在型 3 例にみられた。骨レ線像は，乳頭状腺癌やろ胞腺癌では osteolytic な像を示すことが多く，他方，髄様癌では osteosclerotic な像を示した。甲状腺癌の骨転移は，骨シンチグラム上，cold と hot の集積に分れ，骨レ線像の所見や組織型とを併せ考察すると，Tc-99m-MDP の骨への集積機序を考える上で興味深かった。